

第6回佐倉市地域福祉計画推進委員会 議事録

開催日時	令和6年3月28日（木） 午前10時00分～12時00分
開催場所	社会福祉センター3階小会議室
出席者	石原 茂樹委員、宇田川 光三委員、川根 紀夫委員、黒田 聡委員、 小林 眞智子委員、近藤 美貴委員、住吉 アキ子委員、 深沢 孝志委員
欠席者	中田 加苗委員
事務局	山本 淳子（福祉部長）、小林 知明（社会福祉課長）、下地 正史 （社会福祉課管理班長）、井上 睦（社会福祉課地域福祉班長）、 橋口 庄二（社会福祉課主査補）、村石 祐一（社会福祉課主査補）、 関 光一朗（社会福祉課主任主事）
議 題	1. 議事 （1）第5次佐倉市地域福祉計画の策定について
配布資料	資料1 第5次佐倉市地域福祉計画の策定について （令和5年11月17日・第5回推進委員会以降） 資料2 第5次佐倉市地域福祉計画書
傍聴人	なし

1. 開 会

今回の議事録確認者は、小林会長と石原委員の2名であることが確認された。

2. 議事

（1）第5次佐倉市地域福祉計画の策定について

資料1及び2に基づき、事務局から説明を行った。

○意見、質疑等

【会長】

- ・ 前回会議以降の経過について、事務局から説明があった。これについて、ご意見、ご質問をお願いします。

【委員】

- ・ 資料のパブリックコメントを読むと、状況をよく見た上でご意見をくださる市民がいるとわかる。実施する側は、襟を正して、なるべく市民にわかりやすく、この計画に基づいて実践していかなければならないと感じた。

【委員】

- ・ 自分も同じ感想を持った。生活困窮者自立支援事業は、市社協の受託に決ま

ったのか。

【事務局】

- ・ 市社協に委託することとなった。今回から3年間の委託期間となる。

【委員】

- ・ 短期間で終わらせるような内容ではないので、更に継続できるよう、3年間で市と市社協の連携を深めてもらいたい。

【委員】

- ・ パブリックコメントでなるほどと思ったが、グループホームなどよりもっと先の、住んでいる家に住み続けたいというような考え方もあるということに初めて気がついた。1人の障害者が普通の家に住んで、いろんな支援者が1日中付き添うなど、持ち家で暮らし続けるということに関する考え方やサポートも、今後、視野に入れていかなければいけない。

【委員】

- ・ アウトリーチについて。責任や守秘義務の関係をどうするか、悩ましい。国家資格のようなものがあるわけではないので、どこまで本当に相談できるのか、気になるところ。相談を受けても、どこまでオープンにできてどこにつながかなど、内容は重い。しかし、成功すれば、市のイメージとして、大きな評価につながると思う。人員などの面でフォローをしながら、ぜひ継続していつてほしい。

【委員】

- ・ 個別支援を通じた地域づくりが核になっていくが、やはり個人情報はどう扱うかは重要。基本的には相談者の了解に基づき、個々の判断となるが、説得するのはまさにコーディネーターの力量であり、それが試される。人員の数だけでなく、質も担保されなければならない。

【委員】

- ・ 今回のパブリックコメントの意見は、今後こうしたことを考えていかなければならないというように、我々の勉強になる内容だった。
- ・ 計画書で気になったのは、市社協の地域福祉コーディネーターと生活困窮者自立支援事業におけるアウトリーチ型支援との関係が、少し曖昧に感じられた点。また、パブリックコメントの意見にあったような、緊急ではないが相談に乗ってほしいといった支援についても、次期計画に記載できればと感じた。

【委員】

- ・ パブリックコメントの意見からは、現実とできることとの差がうかがわれ

た。地域福祉において住まいの問題は欠かせないが、人口減少が進み、空き家も増える中、親を亡くした引きこもりの人が1人住んでいる姿を思い描くと、深刻だと感じた。

- ・ 重点施策は機能であり、要は、困っている人が助かるようにすること。相談というより、困っている人が何らかの形で支援につながり、困り事が解決されるというシステムができればよい。機能だけ作って成果が出ていないといったことのないよう、成果を返していくということが必要。

【委員】

- ・ 自分は事業者の立場として、パブリックコメントの意見をきちんと受けとめ、地域に返していかなければならないと思った。意見者のように、障害福祉計画だけでなく地域福祉計画にも視点を置くような姿勢が、我々事業者にも必要だと感じた。
- ・ 様々な相談機関がある中、新たに始まる事業と既存の機関との住み分けや連携がうまくいかないと、支援から漏れる方が出てしまう。自分の担当する分野でなくとも、困っている方に手を差し伸べたり気づいたりということを、地域全体が育んで力を発揮できるようになっていくと、その地域は強くなっていくのだろうと感じた。

【会長】

- ・ 事務局からは。

【事務局】

- ・ 今回の重点施策について、成果を出していけるよう、しっかりと進めていきたい。
- ・ 今回の計画は、理念に比重を置いた今までの計画よりも、課題と、それに対する施策を、わかりやすく示せたのではないかと考える。ご意見をいただく中で、このような形にまとめることができ、よかったと思う。

【委員】

- ・ 第4次計画と異なり、第5次計画では進行管理に一つの章をあてて具体的な担当部署と目標値が記載されており、一市民として、わかりやすいと思う。

【委員】

- ・ これまでよりも踏み込んだ計画になっていると思う。今回はSDGsの視点が加わった。人口減少、少子高齢化が進み、よりSDGsが求められる中での地域福祉のあり方、福祉政策のあり方というところが、新しいテーマになってきているような気がする。
- ・ 団塊の世代の高齢化に際し、担い手をどうしていくか。

【委員】

- ・ 私の住む地区には食料品のスーパーがあり、ドラッグストアやホームセンター、クリニックも徒歩圏内にあるが、それでも空き家が多く、町内会の加入率が50%というところもある。その状況で、誰が地域福祉活動を担えるのか。そうならないように取り組まなければならない。空き家の問題、外国人居住の問題などが増え、どこの地域であっても、課題はそれほど変わらない。その中で、地域住民の総力で取り組んでいくには、地域まちづくり事業実施団体などが核になるのではないか。今回の計画書に満足してはいるが、これからの課題は簡単にはなくならないと思う。

【委員】

- ・ 実際に空き家率は高まっている。高齢化すると大体は子供のところに引っ越すので、空き家は増えていく。また、高齢化に伴う悩み事も、内容が単純ではなくなってきていると感じている。これから地域福祉を考えるに際しては、若い人が増えているような自治体から何かうまく吸収していくようなことを考えなければならないのではないか。
- ・ 60歳が定年だった頃は、元気な60代が活動の担い手となり得たが、今の60代はまだ働いており、余裕がない。インフラ環境など全部駆使して、何か方法を考えていかないといけない。魅力ある目玉を押し出しながらも、現状を把握しながら進めていくべき。
- ・ 目標の数値は、できそうだからという数値ではなく、チャレンジの意味合いで設定し、どこまで達成できたかを示した上で、意見をもらうもの。今後、計画を推進していくに際しては、単なる数字の羅列でなく、地域住民も満足し、行政も努力したというかたちの評価のしかたを考えていくべきだと思う。何が実施できなかったのか、課題は何であるのか。PDCAのサイクルに基づき、見直しを繰り返しながら上り詰めていければすばらしいことと思う。

【委員】

- ・ 地域福祉を考えるにあたり、人口の減少は曲線的に激しく進行していくという実情を認識しなければならない。自治会の活動も、今までどおりのことをするのでなく、例えば行事を半分にしたり、2年に1回にしたりといった工夫が求められていると思う。
- ・ 能登半島で震災があったが、要支援者名簿に基づく個別避難計画はほとんど役に立たなかったようだし、事態が長期に及ぶ状況において、自治体や企業のBCPも同様。福祉避難所の開設状況も気になった。これらをしっかり考えていかなければならない。
- ・ 改正差別解消法により、民間事業所における合理的配慮が努力義務から必須化した。この周知に努めてほしい。

- ・ 他の委員も発言されているように、第5次計画は、第4次計画と比べて、何をしていくのかが目標値を設定することでわかりやすくなっていると思う。

【委員】

- ・ 私は自治会や自主防災会、地域まちづくり事業実施団体、地区社協等に携わっているが、最後にぶつかるのは、自助共助の問題。市には様々な部署があるが、福祉部は人を相手にする部署であるという点で大事だと思う。
- ・ 困った時、あるいは困っている人を助けたい時に、計画の考え方を活かしてもらえるよう、発表していければよいと思う。

【委員】

- ・ 計画の指標は、かなりの割合で市社協にも関わるものとなっており、市社協としても、改めて整理をしながら数値や目的の意味、評価のしかたを考えていきたい。市社協の地域福祉活動計画と策定期間・計画期間も重なり、重点施策についても意見を交わして、これまでになく市と市社協が連携して作業できたのではないかな。
- ・ これまで市社協は、地域住民の方々に活動に参加していただくということに努めてきた。そして、14の地区社協が、県内でもトップクラスの活動実績を誇るようになった今、市社協は次の段階として、積極的・能動的に地域へ出向き、自分たちで地域の声を聞き、課題を拾い、地域の方と一緒に解決につなげていくということをしていかなければならないのではないかと考えている。
- ・ 反面、担い手の不足や少子高齢化に伴う課題は大きい。これに対してできることとしては、まず、元気な人への積極的な呼びかけを行うこと。先般、地域福祉コーディネーターが、担当地区の小中学校の保護者に対し、どんな活動に現在取り組み、あるいはどんなことに興味を持っているのか、活動できる時間帯や曜日は、といったアンケートを実施したところ、思ったよりも積極的な回答が多かった。そういうものをとらえながら、参加に結びつけていくような取り組みをしているところ。地域福祉は、公だけでも事業所だけでも成り立たないので、多面的に活動に参加していただく資源を増やし、地域全体が見守り支えられるまちづくりにしていけるよう努めたい。

【委員】

- ・ 計画は見直しをして進めていくことが重要と考える。推進する中で、うまくいかない部分があった時には、担当課だけでなく、ぜひ社会福祉課も力添えをしてほしい。計画の修正が必要になったら、勇気を持って修正を考えてほしい。
- ・ 担い手不足の問題に関しては、障害を持つ方にもできる場所があると思っている。支えられる側・守られる側としてではなく、地域の一住民として自分ができる役割を果たすということが、本人にとって、次につながるものになるし、地域にあっては、それが担い手の養成にもなっていく。

【会長】

- ・ 私は民生委員の立場で当委員会に参加している。思ったより民生委員の認知度が低く、役割や活動について知られていないという課題があり、民児協だより等、広報活動が重要。また、地区によって、地域と民生委員がうまくいっているところもあり、そうでないところもある。こうした状況を、少しでも良くしていきたいと思っている。
- ・ 立派な計画ができたと思うが、これを住民の方が知る機会がなかなかない。まずは、福祉委員、民生委員、何かの活動をされているボランティアといった方々に計画を周知して、連携していくことが大事だと思う。
- ・ どの地区社協でも、高齢者の居場所というものは以前からあったが、子供の居場所というものがなかった。地域の人達と一緒に過ごせる居場所として、何とか歩いていけるとところに子ども食堂を開設したいと思い、市社協の声がけであったか食堂ネットワークを立ち上げた。コロナ禍においては、会場が使用できなくなるなどの様々な制約があったが、ネットワークを活かし、食材を届けたり、100円弁当を始めたりといった取り組みをした。8団体でスタートしたネットワークも、今は17団体となっている。子ども食堂に限らず、この居場所というものは本当に大事だと思う。そこに集まる人たちの中で、「あそこの家の窓がまだ閉まっている」といったような話が出てきて、「では私が見てくる」というようにつながっていく。やはり活動は1人では無理なので、民生委員や福祉委員を手伝ってくれる仲間を地域に増やしていく、これが一番大事だと思っている。
- ・ 行政と社協、また行政内部の連携が、回を重ねるごとに深まってきている。民生委員としては、重点施策のアウトリーチ型支援としっかり連携していきたい。

【委員】

- ・ 担い手不足の話に関連して、自分の自治会での話だが、この度の総会で、正副会長ともに40代の女性となった。紆余曲折はあったようだが、どんなことをすればよいかのイメージがつけば、実は、若い人もやってくれるということ。総会も、事業計画や会計報告だけのマンネリではなく、若手も参加して対面で意見を交わせば、課題の浮き彫りができる。地区社協などで活動しているような古参のメンバーが、コメントして盛り上げていけば、若手の人たちの動機付けになる。元気な高齢者が、アドバイザーになればよい。

【会長】

- ・ 私のところでも、去年から40代の方が会長になっている。私も40代くらいから役員としてやってきたが、人のためというより、自分が老後も安心して生きていけるような団地を作ってきた感もある。

- ・ 事務局からも願います。

【事務局】

- ・ 長い間お世話になりました。
- ・ 今回の計画では、このような課題に対し、このように対応していくということが、わかりやすく示せたかと思う。
- ・ 重点施策のアウトリーチ型支援は、佐倉市における包括的な支援体制として、成果を出せるように進めていきたい。

【事務局】

- ・ 2年間どうもありがとうございました。
- ・ 地域で活躍されている委員の皆様のお話から、地域での課題もよく伝わってきた。今回の計画策定に際しても、様々なご意見をいただいた。行政としても、人口が減少する中、地域の皆さんと共に、持続可能な地域づくりを行っていくことが大きな課題だと考えている。
- ・ アウトリーチ型支援においては、誰1人取り残さないというよう進めていきたい。
- ・ 引き続き、地域で活躍される皆様のご意見を伺いながら、計画を推進していきたい。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

- ・ 本日はこれで終了する。長きに渡りご協力をいただき、誠にありがとうございました。

3. 閉 会